

多摩支部会報

2020年(令和2年)迎春号

令和2年1月19日 発行

明治大学校友会
東京都多摩支部

支部長 富麻 功

広報委 飯田光宏



謹
賀
新
年



和泉校舎 新教育棟イメージ 2022年3月竣工予定

年頭に当たり

多摩支部長
富麻 功

(39年 商 小平)



明けましておめでとうございます。

清々しい気持ちで新年をお迎えのことと存じ上げます。

また日頃は多摩支部の運営・活動に対し絶大なるご理解とご協力をいただき有難うございます。

令和の時代を迎えた昨年は、多くの祝い事とともに厳しい自然災害もありました。

様々な事柄の中で、私はいくつかの地域支部のイベントに参加してきました。そこでは多くの校友の皆さんが澁刺と活動している姿に、地域におけるチームワークとコミュニケーションの素晴らしさと大切さを強く感じさせられました。多摩の地域支部はまだまだ力強く前進できると確信するに至りました。

そして、新年早々の箱根駅伝ではこのままいけば3位かと思いつつ6位でのシード権獲得に至り興奮しそして安堵したことでした。また全国大学ラグビー選手権大会では久しぶりの頂上対決としてオール明治の期待を背にし、激しい追い上げも残念な結果となりました。次シーズンに向けても野球、ラグビー、駅伝、サッカー

はもちろんのこと、フィギアスケートの樋口新葉さん、本年4月入学予定の本田真凜さん等の活躍にも大いに期待したいところです。

更に、今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、胸躍る日々が到来します。全アスリートとともに母校出身の選手の健闘を期待したいですね。

多摩支部は全国でも有数の21地域支部があります。「女性会員の増加」「若手会員の増加」というテーマは全地域支部共通の永年の課題です。また「父母会との連携」も今後の課題です。これらの課題は短期間で解決できることではなく多摩支部と地域支部の将来への大きな継続的なテーマですので全員で考えていきたいと思っています。

現在皆さんの地元の各地域支部では支部内の状況を整理していただいております。有益な情報の把握、共有化、を経て、多摩支部と地域支部が一体となり、地域支部の実情にあった手法で実行の段階に入っていければと考えています。皆さんの積極的なご意見と提案をお待ちしています。

今年も常に地域支部と共に考え、地域の皆さんのご意見を尊重しつつ多摩支部の運営に当たる所存ですので、ご理解のうえご支援とご協力をお願いいたします。

結びに、本年が校友の皆様とご家族様にとりまして幸多き一年となりますよう心よりお祈りいたします。

本対談については、「明治大学広報No.735」で全校友に配布されており、既にご案内としますので、一部骨格だけを抽出しました。

世界に発信する大学・研究型大学への転換

2019年の振り返りと年頭所感

柳谷理事長

自然災害の多い年で、被災学生の学費減免や入学検定料免除など実施。

学校法人経営の観点では、留学生と日本人が共に生活する国際混住寮「明治大学グローバル・ヴィレッジ」の開設があり、2

021年に迎える創立140周年記念事業の基本金組入れ前当年度収支差額」が前年比5億円増加の19億2100万円になったことが大きい。要因はコスト削減と学費改定・定員増・3年連続の志願者11万人超えなどである。

今後人類と地球環境の調和した未来をできる有為な人材を社会に送り出すべく教学と法人が一体となって取り組んでいくことで、2020年を大きな飛躍の年にしたい。

土屋学長

学長就任以来「研究型大学への転換」を声を大にして取り組んできた。2019年には「明治大学再生可能研究インスティテュート」と「明治大学生命機能マテリアル国際インスティテュート」が設置され、「太陽電池を中心とした再生可能エネルギーの創生、その有効性と利用と貯蔵までの研究や人工材料の再生医療などへの医学応用にかかわる研究が行われる。

また、昨年末には農学部長の嶋比呂志教授による人工多能性幹細胞(iPS細胞)を使ってブタの体内で人の膵臓をつくる研究計画が報道されたように、農学部における研究も大きく実りあるものになってきている。明治大学には医学部はありませんが、こうした医学系・生命科学系の研究が高い注目を集めているのは、明治大学が研究型大学となっていく姿が示されたものである。

授業負担を軽減して、研究に専念できる環境づくりにも着手するなど、研究型大学への基本的な道筋は整ってきており、その方向で行って欲しい。研究が教育に還元され、豊かなリソースが提供されるように願っている。

140周年記念事業についてー柳谷理事長

記念事業につきましては、2018年末から140周年記念事業実行委員会を開催し、そのもとに記念式典・祝賀会等4分科会を設け、計画の具体化を進めている。2021年11月1日の創立記念日に記念式典と祝賀会を開催予定。新教育棟建設・1

40周年記念ロゴマーク決定やさまざまな企画ものの検討をしている。

また、記念事業を支えるものとして「創立140周年記念事業募金」を開始、寄付者を称える「ネームプレート」設置な

ど「寄付の見える化」を一層推進。

140周年記念事業は、その10年後の創立150周年を見据えたものであり、「グランドデザイン2030」に基づいて長期ビジョンを策定していく。

「グランドデザイン2030」についてー土屋学長

2030年がどうなっているか予想するのは難しいが、日本の採用マーケットはアジアに広く開かれたものであろう。少子化もありアジア人材を多く迎える時代となり、日本の学生とアジア人材との競争関係になり、競争に勝てる能力が必然となる。

大学教育もアジアや世界を意識せざるを得ず、とりわけ21世紀はアフリカの時代といわれる。幅広い視野と能力を持った人材を送り出さなければ、大学は生き残れない。「グランドデザイン2030」では、2030年には外国語による科目を、全講義の30%、本学教員の30%は女性教員を目標に掲げている。

多様な人種・性別・国籍からなる人たちに支えられた大学に転換していく。

様々な形の多様性に応えうる大学になっていく準備は既に始まっている。

(編集者注釈)「グランドデザイン2030」は創立150周年を見据え、建学の精神・理念・本学の使命を再確認すると同時に、10年後の本学の将来像(ビジョン)とそれを実現するための重点施策を示すものである。



江面氏

写真は全て
江面氏提供

その1

その2

河西善実 国分寺

PR 1	安井 豪	目大	向
HO 2	武井 五	荻大	藤
PR 3	笹川 康	片大	藤
LO 4	片倉 廣	高橋 大	河
LO 19	高橋 大	柴 大	河
FL 20	柴 大	松 哲	大
FL 7	繁松 哲	坂 和	樹
No8 8	坂 和	沼 達	京
SH 9	飯沼 達	山 平	大
SO 10	山 平	石川 貴	大
NTB 23	石川 貴	村 大	輔
CTB 12	村 大	射場 玉	樹
CTB 22	兒 知	山 也	弘
NTB 14	山村 弘	雲 貴	
FB 15	雲 貴		

明治大学

0 前半 31

35 後半 14

35 合計 45

美	前		前	後
5	0	T	4	2
5	0	G	4	2
0	0	T	0	0
0	0	PG	1	0
0	0	DG	0	0

PR 17	横山 一人
HO 16	宮武 海
PR 18	阿部 匠
LO 19	中山 匠
LO 5	下川 甲
FL 6	相良 昌
FL 20	大嶋 哲
No8 8	丸藤 崇
SH 9	齋藤 直
SO 10	岸岡 智
NTB 23	梅津 友
CTB 12	中野 友
CTB 21	小西 泰
NTB 14	森山 淳
FB 22	吉村 祐

向井 淳 町田

設樂一彦 福生

ラグビー大学選手権決勝 観戦報告

2020年1月11日



サッカー天皇杯決勝(2020.1.1)入場者数57,597人に劣らない入場者数57,345人の満員スタンド。

新国立競技場で行われたラグビー大学選手権は早稲田が11大会ぶりの優勝となりました。明治大学は前半1トライもあげられず0-31で翻弄されました。対抗戦で勝っているのもチームに油断があったのでしょうか。後半は猛追しましたが、時すでに遅し、35-45で勝利を逃し2連覇はなりませんでしたが、悔しいですが、早稲田は対抗戦で負けた悔しさがあり、勝利への執念が一步明治を上回っていた気がします。しかし、ここは素直に相手に拍手を送りましょう。これからは最高のライバルとして戦って行くことは間違いないですから。楽しみはまた来年にとっておきましょう。

思えば、対抗戦で優勝した後の大学選手権。東海大学との準決勝、その前の関西学院大学との試合は精彩がなく、かろうじて勝利した感がありました。それに比べ、早稲田大学は準決勝で、それまで毎試合50点以上を奪って、全勝で勝ち上がってきた天理大学から52-14で勝利し、圧倒的強さを見せつけました。その勢いの違いが今日の結果にも表れたと思います。

さて、国立競技場の試合はスケールが大きくて見ていて気持ちが良いものです。2013年12月2日旧国立競技場最後の明治早稲田戦でユージンこと松任谷由実が「ノーサイド」を歌ってから7年、再び国立競技場で熱戦を観戦できたのはとてもうれしいことです。

新国立競技場は新しくきれいですが、座席と座席の前後のスペースが狭く、またトイレの数も少ないと思いました。外国人が座ることを考えるともっと広くとるべきだったと思います。メインスタンド側は一部まだ座席が取り付けられていない箇所があり、未だ工事が完成していないという印象でした。 明治大学校友会東京都多摩支部 企画事業委員会 江面利和(写真:記事)



復路7区 阿部

箱根駅伝応援記(写真提供:アフロスポーツ)

正月恒例行事として町田地域支部では往路第3区(藤沢付近)の応援に駆けつけています。今年も快晴に恵まれた2日、藤沢駅至近の校友の会計事務所駐車場に出かけました。藤沢地域支部の用意された甘酒を2,3杯飲み干し、ランナーが来るのを待ちます。白バイやパトロール・カー等が何台か過ぎた後、空でヘリコプターがホバーリングするとランナーがやってきます。青山が通過、早稲田・国学院・帝京・東海と続くがまだ来ない。更に4校が通過してやっと来ました。拓大と競っています。カメラを構えるがあつという間に目前を通過、撮影失敗! 首から上が写っていない! !

町田に帰ってからいつもの飲み屋で"新年会" 乾杯!!

編集後書 令和初の正月、駅伝、ラグビーと学生スポーツを快晴のなかで楽しむことができました。駅伝ではデッドヒートの末、総合6位で5年ぶりにシード権を確保できました。ラグビーは東海大学を撃破し、早稲田との頂上決戦に臨みました。結果はご覧の通り。何があったのでしょうか? 対早稲田3連勝中の油断? 慢心? 新国立での意識過剰? 後半は流石でした。今年度も有望な学生の入学が予定されています。期待に応えられるよう指導・育成して欲しい。新春対談にありますがように母校明治大学は140,150,200周年を見据え、生き残りをかけ、アジアに、世界へ向けて飛翔しようとしています。校友皆様の物心両面の支援を求めています。校友会の目的は母校賛助です。多摩支部も大きく飛躍するよう頑張りましょう。 多摩支部広報委員会